

【別添2】

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校  
(通信制課程)

学校番号 5813

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	年2回のアンケートを実施したが、いずれもいじめはないとの回答であった。広報紙「飛騨通信」で保護者にも再度問いかけたが、連絡はなく、2回目のアンケートでもいじめはないとの回答であり、落ち着いた学校生活を送っていると考える。その他、アンケート等から判明した迷惑行為等について、早速、担任から口頭で注意喚起するとともに、広報紙でその結果や分析、対応について報告した。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇一人一人が自己有用感を味わえるようにします。 ◇自己を大切にし、自己指導能力をつけ、他人を思いやり、仲間と協力することで強制力を身につけることをめざします。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・校長 ⇒ 副校長 ⇒ 教 頭 ⇒ 職員会議 生徒指導主事・教育相談・HR担任	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 新入生や転編入生に対する適応指導を行います。 (2) 講話や交通指導を通じ、生命の尊重・安全の指導・情報モラル指導をします。 (3) 保護者懇談会や迷惑調査、職員研修を通して、教育相談活動を充実させます。 (4) 部活動や学校行事を通して、学校生活をより活発化させます。 (5) 家庭との連携を密にして一人一人の個の状況に応じた学校生活ができるようにします。	(1) 生徒及び保護者アンケートにより判断する。 (2) 全職員が全生徒の情報を共有して、情報交換ができる。 (3) 安心・安全な学校生活ができています。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・入学生の情報を得るため出身中学校訪問した。 ・学校適応指導に力を入れた。 ・安心安全な学校生活を送る場の提供に努めた。 ・定期的情報交換会以外に、日常的に生徒の様子について交流をした。担任以外の職員も積極的に関わり人間関係の構築を図った。 ・行事は生徒会を中心に推進し、生徒が主役となる活動の充実を図った。	①一人一人を深く理解し、個に応じた適応指導ができたか。また多面的な支援ができたか。 ②個々の生徒が安心、安全な学校生活をおくれたか。 ③学校行事は仲間と触れあい、貴重な体験の場となったか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○中学校への訪問では、新入生の情報を得て今後の指導につなげるとともに、本校在校生等の情報を伝え、本校の教育活動への理解につながった。 ○職員研修会を実施し、発達障がいへの理解を深めた。また、3回の命を守る訓練では、内1回を犯罪被害者の母親による講話とし、命の大切さを啓発した。 ○状況に応じて関係機関等との連携を図り、スクールカウンセラー、子ども相談センター、他校と情報共有し、保護者や生徒の安心、安全確保に努めた。 ▲多様な生徒の入学に伴い、その対応も多様な対応が求められるため、職員間の情報交換を一層密にしたが、さらに共通理解を深めることが必要である。	
12	来年度に向けての改善方策案 ・生徒がさらに安心、安全な学校生活を送れるよう努めるとともに、ソーシャルスキルを高める。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年1月27日

【意見・要望・評価等】

- ・不登校を経験したり、他校での学校生活になじめなかったりなど、様々な事情を抱えた生徒たちにとって、通信制や定時制は大変重要な存在である。
- ・職員間の情報共有に努める他、アンケート結果にも迅速に対応し、保護者への情報提供や関係機関等との連携を深めるなど、保護者や生徒に寄り添った学校経営を感じる。